

令和5年度(2023年度)第2回北海道病院事業推進委員会議事録

1 日時

令和5年(2023年)8月7日(月) 17:55~19:00

2 場所

現地(かでの2・7 820会議室)及びWebによるハイブリッド開催

3 出席者

(1) 北海道病院事業推進委員会委員

小熊 豊委員長(砂川市立病院 名誉院長)
奥村利勝委員(旭川医科大学内科学講座教授) ※Web出席
土橋和文委員(札幌医科大学附属病院病院長)
寺田昌人委員(寺田公認会計士事務所代表)
松原良次委員(医療法人社団健心会桑園病院院長)

(2) 北海道(事務局:道立病院局)

鈴木信寛 病院事業管理者
岡本収司 道立病院部長
畑島久雄 道立病院局次長
高木順一 道立病院局次長
植村直樹 道立病院局病院経営課長
原田智史 道立病院局人材確保対策室長
関本 徹 道立病院局経営改革課長
小俣憲治 道立病院局経営改革推進指導員 ほか

4 議事

【事務局】

予定時刻よりも少し早いですが委員の方お揃いのため、ただいまから、「令和5年度第2回北海道病院事業推進委員会」を開催いたします。

それでは、開催にあたり、鈴木病院事業管理者よりご挨拶申し上げます。

【事務局】

病院事業管理者の鈴木です。委員会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、本年度、第2回目の「北海道病院事業推進委員会」にご出席いただき、深く感謝申し上げます。

また、本委員会の委員の任期は、7月23日をもって満了したところですが、皆様には、引き続き委員にご就任いただき、ありがとうございます。今後も忌憚のない、闊達なご議論をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、前回の委員会では、令和4年度自己点検・評価を実施するにあたり、評価の方向性などについてご議論やご意見をいただいたところですが、本日の委員会では、前回の議論、ご意見を踏まえ、点検・評価の最終的な取りまとめを行っていただき、その結果については、9月11日に開催予定の道議会保健福祉委員会に報告したいと考えています。皆様には、それぞれ専門的な見地から、各病院の経営改善に向けた方策などについて、忌憚のないご意見、ご助言を賜りますようお願い申し上げます、私からの挨拶とします。

【事務局】

本委員会は7月に委員の改選を行いましたので、改選後の委員をご紹介します。
砂川市立病院名誉院長で全国自治体病院協議会会長を務めておられます小熊豊委員です。

【委員】

よろしく申し上げます。

【事務局】

本日、Webにて出席されております、旭川医科大学内科学講座教授の奥村利勝委員です。

【委員】

よろしく申し上げます。

【事務局】

医療法人社団健心会桑園病院院長で北海道精神科病院協会会長を務めておられます松原良次委員です。

【委員】

よろしく申し上げます。

【事務局】

札幌医科大学附属病院院長の土橋和文委員です。

【委員】

よろしく申し上げます。

【事務局】

寺田公認会計士事務所代表で公認会計士の寺田昌人委員です。

【委員】

よろしく申し上げます。

(配布資料の確認を実施)

【事務局】

続きまして、「委員長選任」について、参考資料1をご覧ください。
今回は、委員改選後初めての委員会となりますので、北海道病院事業条例第7条第7項に基づき、委員の互選により委員長を選任していただきます。
皆様からのご推薦等がありましたら、ご発言をお願いします。

【各委員】

特になし

【事務局】

特にご発言もないようですので、事務局から推薦させていただいてもよろしいでしょうか。それでは、事務局から、小熊委員を委員長に推薦させていただきたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

【各委員】

一同同意

【事務局】

小熊委員よろしいでしょうか。それでは、小熊委員に委員長をお願い致します。ここからの進行については、小熊委員長をお願いします。

【委員長】

ただいま委員長のご指名を頂きました小熊です。数年前よりこのメンバーで行って来ましたが、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。平成29年から、道立病院の経営状況に係る点検・評価を行う本委員会に関わってまいりました。道立病院の経営が大変厳しいということは皆さんご存知のとおりでございますし、それぞれの病院でご努力をいただいているところです。先ほど鈴木管理者からお話がありましたように道議会上「委員会点検・評価」をご報告するというので、本日は第2回目の委員会でそれをまとめたということでございます。委員の先生方には、途中で何かご意見がございましたらご遠慮なくご発言を賜ればと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、次第に沿って進行してまいります。「3 議題」にあります「令和4年度北海道病院事業改革推進プラン自己点検・評価書について」です。

前回7月の委員会では、事務局から本庁及び各病院による取組実績、取組の自己点検・評価について説明があり、皆様方からご意見・ご質問をいただきました。本日は前回の議論を踏まえ、委員会として意見集約したものを事務局が「委員会点検・評価」としてまとめております。

各委員の皆様には、事務局から事前に資料が送付されているので、それぞれ確認いただいていると思いますが、改めて事務局から簡潔に概要を説明してもらいます。また、議事を効率的に進めるため、各章ごとに分割して議論することとします。

それでは、まず、「第1章 経営改善に向けた評価」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

事務局の葛西と申します。よろしくお願ひいたします。
私の方から説明させていただきます。

(資料1第1章について説明)

【委員長】

はい。ありがとうございます。前回項目をご説明頂いた上で、それに対し電気代や物価の高騰について付け加えて頂きたいということで、実際にお話を頂き、やはり影響が大きいという気がします。今お集まりの委員の中でただ今ご説明があった内容に何かご質問などございますか。

【委員】

7ページの来年から医師の時間外労働の上限規制が入りますけど、現行で見たら規制の適合具合ってどんな印象でしょうか。全然シミュレーションしていなければ、結構なのですが。

【事務局】

私の方から説明させていただきます。時間外労働の関係ですけれども、現在、いわゆるB水準というところで、コードモックルの2つの診療科目で取り組みを進めているところでございます。現時点で北海道医療勤務環境改善支援センターに対しては、すでに相談は終えておまして、日本医師会が運営している（医療機関勤務環境評価）センターに申請をし、審査を待っている状況です。

【委員長】

そうすると、コードモックルの2つの診療科でB申請ということで、審査結果が出るまでに4ヶ月はかかるので、いまだと11月、12月くらいに結果がでるということですね。そこで、また直すものがあれば直すということですね。

【委員】

現場の評価では、何パーセントくらいが960時間オーバーしているのでしょうか。

【事務局】

現在1名です。

【委員】

それは押し込めないのですか。

【事務局】

手術に関連する部分ですとか、集中治療に関連する部分というところで、なかなか960時間に収まらないといった状況でございます。

【委員長】

B申請が認められれば、2035年までは認められるので、その間にまた考えていけばいいのでは。

【委員】

小児が九十何項目あって、事務方は大変だと思う。

【委員長】

聞くところによりますと、六百くらいの病院から出るだろうという話で、いま五百くらいまで来たというようなことを聞いています。大学病院は全部出しましたか。

【委員】

うちは出していないです。押し込もうと。

【委員長】

奥村委員のところはいかがですか。働き方改革はB申請で出されていますか。

【委員】

私の方ではどのように書類を提出しているか、把握しておりません。病院長が7月に代わったのですが、元々の古川病院長は積極的に働き方改革の方策を考えていたようですので、うまくやっていたのではないかと期待しております。

【委員長】

ありがとうございます。それぞれのご判断でBになったり、C1C2になったり、判断されるのでしょうか。札幌医大のような忙しいところの先生はやれるのですか。

【委員】

基礎調査だと問題ないです。押し込める。

【委員長】

我々札幌医大から派遣を受ける立場の病院からすると、Bで出しておいてもらわないと困るなという気もしないでもないけど。

それは先生方のご判断によるのでしょうか。なるべく自治体病院や道立病院に影響がないようお願い申し上げます。

【委員】

変形労働のゾーンがあって、ここは休ませているので。集中治療のところで結構働いているのですが、完全な変形労働になっていて大幅に休みをとれますので。

【委員長】

働くときと休むときとね。我々の希望としては、今も言いましたけど、自治体病院と一般病院と影響がないようお願いしたいです。

【委員】

それはないです。派遣切りはなしです。

【委員長】

よろしくお願いします。

12ページの点検・評価としては、4項目についておまとめ頂きました。我々としては、この点検・評価の内容でよろしいかと思いますが、先生方のご意見としてはいかがでしょうか。

【各委員】

一同同意

【委員長】

それでは、全体的なことについて、今までと同じようにそれぞれ頑張って頂いて、このコロナ渦で大変なところで、患者確保や患者満足度、あるいは職員のやる気の維持の取組にご努力いただき、また、この苦しいときに人材確保もいただいたということで、引き続き頑張って頂きたいと思います。

では、続きまして個別の病院についてお話を伺いたいと思います。まず、第一に13ページの江差病院のご説明をお願いします。

【事務局】

(資料1 第2章(1) 江差病院について説明)

【委員長】

はい。ありがとうございました。ただ今ご説明頂いたように、1つ目は、地域医療連携推進法人絡みのこと。2つ目は、札幌医科大学との一層の取り組みのこと、指導医はじめ医学生ほか遠隔医療など。それから3つ目は、コロナの患者の問題など、残念ながら9月から交付金が減りましたので、そういった影響など。4つ目は精神科ということで、入院病棟を休止し、外来に重点化するという新たな方向性を出したと。先ほどのそれぞれのご努力に加えて、江差病院で4つの大きな特徴のある試みがされたということです。

何か委員の先生方からご意見ございますか。

必ずしも対前年比で収支が改善したとはいえないと思いますが、やむを得ないところもあって。

私の思うに、札幌医大との遠隔診療の進展が大切だろうと考えています。前回、土橋委員に力強く支援するとお言葉頂いていますので、よく先生とご協議の上、お進め頂いたらと思います。

地域医療連携推進法人は重点的なのはいつまででしたか。

【事務局】

期限は定まっておらず、1期生として厚生労働省に認めてもらっていて取組を進めているというのが現状でございます。また地域医療構想の検討や推進など厚生労働省が進めていますので、進捗を適宜地域医療課に報告している状況であります。

【委員長】

何か指導を受けていることはありますか。

【事務局】

明確に指導や、いつまでにこれをやるということは言われておりませんが、進捗や重点支援を受けていますので、支援の中身については厚生労働省も一緒にオンラインで話を聞いて状況をチェックしているところです。

【委員長】

はい。ありがとうございます。引き続き、皆さんがご指摘を頂いた4つの点を中心に一層進めて頂ければと思いますが、委員の先生方よろしいでしょうか。

【各委員】

一同同意

【委員長】

それでは、続いて羽幌病院の説明をお願いいたします。

【事務局】

(資料1 第2章(2) 羽幌病院について説明)

【委員長】

はい、ありがとうございました。総合診療医を中心として体制を必死に構築されていらっしゃるということだと思います。地域包括ケア病床を大いに活用され、また、救急患者も増えているということで、いろいろな方面でご努力を頂いていると評価できると思います。最終的な委員会としてのまとめを発表して頂きましたが、一生懸命に医師をはじめ、医療従事者の確保を図りつつ、総合診療医中心の体制を構築していると。それから、連携室を通し、地域医療構想会議等で地域周辺と連携強化を図っているということで、このまま頑張ってもらいたいです。

委員の先生方からは何かご意見ありますか。

【委員】

極めて素晴らしいと思って拝見していましたが、専攻医3名を採用できたというのは特筆すべき業績ではないかなと思います。確かコロナ前の同様の会議でも羽幌病院で専攻医が1名か2名採用されていたと記憶しているのですが、経年的に専攻医が連続して複数名ずつでも採用されているのであれば、これは極めて特筆すべき業績と考えて良いので、「委員会点検・評価」のところに盛り込んで頂くと良いのではないかなと思います。以上です。

【委員長】

ありがとうございました。確か、一時期専攻医が2名か3名増えて、また減ったのですよね。去年増えたのですよね。

【事務局】

今年からです。

【委員長】

今のところ、専攻医の増減が年度ごとにあって、そういう取り組みを一生懸命しているので、上手くいくところや人が増えてくるということで。そのところ、もう少し上手に書いてもいいかなという気がするんですけど。

【委員】

私の記憶では、全国で年間200名しか総合診療専門医のプログラムに入らないので、百分の一を羽幌で確保しているという割合になり、かなりの割合になると思いますので、特筆すべき業績としてよいのではないかなと思いました。

【委員長】

はい。ありがとうございます。先生の意見と私の印象ももう少し強調していいのかなと思うのですが、先生いかがですか。

【委員】

是非お願いいたします。

【委員長】

頑張ってもらえたこと、いいことはいいことで評価していくことは大事なことだと思います。その他はよろしいでしょうか。

ちょっと委員の意見として、医師が増えたということ、一時減ってはいますけど、そういう方向性が出て実際増えているということ、強調していただきたいということでお

願います。

次に、緑ヶ丘病院の説明をお願いします。

【事務局】

(資料1 第2章(3) 緑ヶ丘病院について説明)

【委員長】

はい。ありがとうございました。今年の4月から医師も増えて、皆さんのご努力によって、医師に来ていただけるようになってきたと喜んでよいのではないかと思います。26ページですが、令和4年の年間目標や令和3年度実績よりも令和4年度実績見込のほうで、収入が増えている。こういう点は、目標よりも収益が増えたとか、もう少し強調してはいかがでしょうか。どうでしょうか、松原委員。

【委員】

結構です。

【委員長】

このご時世で、しかもスーパー救急をやるのが大変なときに、プラスとなる成績を出すというのは大変ご努力いただいたと私は思うのですが。

いかがですか、寺田委員。

【委員】

収入は増えているのですが。数値目標を見ると入院患者数や外来患者数が落ちているなど。横を見ると、精神科救急急性期医療入院料の算定率の増加により前年度比プラスだったと記載があるので。

【委員長】

寺田委員。なかなかこうプラスにはならないですよ。

【委員】

これをどう表現するのか、ですね。

【委員長】

先ほどの羽幌病院と同じ様に工夫して文章を作られたらいかがでしょうか。私はそう思うのですが、松原委員いかがでしょうか。

【委員】

はい。お任せします。

【委員長】

普通はコロナ渦で収入は減るので。

【委員】

ずっと減りますのでね。

【委員長】

では、この文章でいいということにならないので、申し訳ないですが適宜工夫をして
いただいて。

次に、向陽ヶ丘病院のご説明をお願いします。

【事務局】

(資料1 第2章(4) 向陽ヶ丘病院について説明)

【委員長】

はい。ありがとうございます。一生懸命物忘れ外来や認知症疾患医療センターをやられて。それから、デイケアを中心に地方に出ていかれて、医療の展開に努めていらっしゃるということかと思います。目標よりは実績見込みが下がっていますが。

松原委員、いかがでしょうか。

【委員】

点検・評価に書いていただいているように、全国ではデイケア件数は減りつつある中、若干ではあるが増えている状況と、あとは認知症疾患医療センターで出前講座をするなど患者の掘り起こしをしているということで、非常に努力をしていると思います。

【委員長】

いま先生が仰ったとおりで、これからにとって大事な体制づくりをいま励まれているというふうに、その点をもう少し追加してもいいかもしれない。

全国的にデイケア件数が減っている中で増やしていることとか、地域との関係づくりを進めているということも書いてみていいのかもしれませんが。いいですかね、先生。

【委員】

はい。

【委員長】

そういうことで、また点検・評価の記載の一工夫をお願いします。

次に、子ども総合医療・療育センターの説明をお願いします。

【事務局】

(資料1 第2章(5) 子ども総合医療・療育センターについて説明)

【委員長】

ありがとうございました。いま3つの項目についてお話いただいたのですが、今お話しを聞いていて、私の意見としては、医師とか職員を増やしたということはなかったでしたか。

【事務局】

増やしています。

【委員長】

医師以外に他の職員を増やして、院内の業務改善に努めたとか、そのようなことがもつとあった気がしたのですけど。ありましたよね。

【事務局】

はい。働き方改革への対応として。

【委員長】

そのことも書いてもいいのではないのでしょうか。
奥村委員、コドモックルについて何かございますか。

【委員】

もともとミッションが崇高な組織なので、一切異論はないのですが、この病院は他の病院に比べると、後発医薬品の使用割合が結構低く維持されています。逆に、他の医療機関が80～90パーセントとかなり多いところで、各病院単位でというより組織全体として音頭を取ってうまく後発医薬品に移行したらいいのではないかと。コドモックルに特化したことではないのですが、そういうことを感じました。

【委員長】

はい。ありがとうございました。

色々と後発医薬品の使用については、ご努力をいただいていることは今までの会議で理解していますが、今先生からご意見があったように、引き続き、ご努力を賜りたいと思います。

あとは、働き方改革に向けて、あるいはDPC制度に向けてご努力をされていると。NICUを増やしたことについての効果は特に書かれていないようですが、何か一言あったほうがいいのではないのでしょうか。特に書くようなことはないのでしょうか。書くことがなければいいのだけど。時間とお金をかけて、手間暇をかけてクリアしたので。

それでは、他に追加ないのでしょうか。以前から土橋委員に言われているように、DPCは特殊な制度なので上手にやらなければならないということで、いま頑張っているようですから、よろしくお願いします。

次に、病院事業全体に関することについて、ご説明をお願いします。

【事務局】

(資料1 第3章 全体評価について説明)

【委員長】

ありがとうございます。4項目に渡っておまとめ頂いたということでございます。「医療従事者の確保に努めたことは評価する」という一文がございますので、確保だけではなくて各々のモチベーションを高め、頑張ったということもあってもいいかもしれないですね。私の個人的な印象なのですが。

その他委員の先生から、何かこのことについてございますか。

【委員】

今小熊委員からあったのですが、特に医療従事者の確保のことで、各町立病院から悲鳴に近いことを伺っています。つまり、看護師を雇いたくても雇えない。しかもすぐやめるといところで、非常に医療に逼迫度を強く与えている、ということ聞いています。そういう意味では、道立病院はしっかりと人材確保できているのですが、今後はかなり注視していかなければ、かなり危ないと思っています。

【委員長】

ありがとうございます。道立病院も医療従事者の欠員を抱えております。全国的に看護師も辞めていって病棟を再開できないとかたくさんあるのですが、そこまでは至っていないということは、皆さんがご努力しているということだと思います。

公立病院の大体3割から4割くらい看護師不足で悲鳴を上げている状況です。ですから、確保だけでなく確保に至るまでの努力も何か記載があっているのではないかと思います、先ほど言ったのですけど。

松原委員、何かありませんか。

【委員】

いえ、特にございません。

【委員長】

寺田委員、何かありませんか。

【委員】

いえ、ありません。

【委員長】

奥村委員、何かご意見賜ればと思いますがいかがでしょうか。

【委員】

ありがとうございます。点検・評価のところが厳しめな口調になっているので、良い取り組みもあるので、その点もきちんと盛り込んでいただいて。良い点もあるし、悪い点もあると思いますので、良い点は積極的に、先ほどの専攻医3名の採用の件とか、全国的にもかなり先行した取り組みがあるので、そういったところを具体的に盛り込んでいただいていいのではないかと感じました。以上です。

【委員長】

ありがとうございます。我々委員からの最終的な意見としては、もう少し良いことをやっているのですが、それを文言にいれたらいかがかというお話で、職員のモチベーションを維持するために、あるいは将来につながる体制構築を進めるのにもそういったことは書いたほうがよいのではないかと思います。もし、本日の委員会での議論を踏まえ点検評価意見を修正する場合には、私と事務局で調整を行って修正する形で進めてよろしいでしょうか。もう委員会を開くのは難しいと思いますので。

【各委員】

一同同意

【委員長】

ありがとうございます。それでは、もう少し良いところを書くということでお願いします。

その他、何かございますか。

【事務局】

今回の委員会については、11月中の開催を予定しております。

改めて、事務局より日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【委員長】

ありがとうございました。それでは、以上をもちまして本日の第2回推進委員会を終わらせて頂きたいと思います。皆さん、ありがとうございました。